

日和西雨時報

眞の恒久平和確立念願

外務大臣・松岡洋右氏年頭所感



紀元二千一百迎

〔東京一月同慶〕外務大臣年頭所感
人類の社會は、必ず進歩して生活の改善に取り立たれてゐる。東西の兩洋開拓、鐵道開拓などであるが、明治三百年の春を期して、世界を掌握するを得ない。眞にこれが、日本も第五百年に入った、この間に、中國は國運愈々盛んでして、皇室との協力を固め、中華民國は汪精衛氏を首領とする新政府の下に南京に遷都し、更に我國と基本條約を締結して國交を復活し、且つは軍事的同盟に依り、三國の開港決定が實現せられ、皇國はその志を新政府へ向けて、最も無慈悲に遂行され、その結果は、敵國を我が國と世界に對するものと離れて、私は只身に頼り、世界を通じて、眞に大なる人々に對して恒久にしし永久なる眞の平和基礎を力強く建設する第一歩たらしめたるが爲である。

命を開拓、共存共榮、國際的生産を營む事を以て、先駆的の目的とするべきは、平戦兩時を通じて國家間の生活に於し最も無慈悲に遂行され、その結果は、敵國を我が國と世界に對するものと離れて、私は只身に頼り、世界を通じて、眞に大なる人々に對して恒久にしし永久なる眞の平和基礎を力強く建設する第一歩たらしめたるが爲である。

（續）

獨、英本土襲撃の前提？

或日停車寸劇

〔紐育丹日露戰爭〕獨、英本土襲撃の前提は、廿九日夜クリスマス休

は廿九日夜クリスマス休

